

第53回日本集中治療医学会学術集会

教育セミナー (ランチョン) 28

日時 2026年
3月6日(金) 12:10~13:10

場所 第19会場
パシフィコ横浜 ノース 4階 G401+G402

RRS導入したけど困っていませんか？
様々な教育手法でRRSを充実させましょう



座長
川原 千香子 先生
帝京大学
シミュレーション教育研究センター 准教授



演者
鹿瀬 陽一 先生
東京慈恵会医科大学 麻酔学講座 教授 /
東京慈恵会医科大学附属柏病院
麻酔部・集中治療部 診療部長

※ 学会参加申込時に一緒に申込みください。学会の参加申込期間と教育セミナー(ランチョン)申込期間は異なりますのでお気を付けてください。
教育セミナー(ランチョン)事前申込期間：2026年1月26日(月)正午~2月25日(水)



命のために。生きるのそばに。

日本集中治療医学会
THE JAPANESE SOCIETY OF INTENSIVE CARE MEDICINE

共催：第53回日本集中治療医学会学術集会/フクダコーリン株式会社

RRS導入したけど困っていませんか？ 様々な教育手法でRRSを充実させましょう

鹿瀬 陽一 先生

東京慈恵会医科大学 麻酔学講座 教授
東京慈恵会医科大学附属柏病院 麻酔部・集中治療部 診療部長

Rapid Response System (RRS) は多くの医療施設で導入され、一般的な運用となりつつあります。しかし、運用方法は施設ごとの状況に応じて異なり、複数のモデルが存在します。今後、RRSを持続的に運用するためには、以下の4要素に関する課題を整理する必要があります。

1. 対応要素

院内でRRSを担う職種や資格を明確にし、どの部門が継続的に運営を担当するかを決定することが重要です。

2. 起動要素

病棟で患者に最も近い看護師やスタッフ、医師がRRSの仕組みを理解し、簡単に起動できる体制を構築・維持する必要があります。

3. システム改善要素

起動されたRRSの対応が適切だったかを定期的に振り返り、改善点を明確にする仕組みを導入することが求められます。

4. 指揮調整要素

院内心停止を減らすため、一定のRRS起動件数を維持し、体制の最適化と改善を継続的に行う必要があります。

今回は、RRSの4要素を持続的に改善・維持する方策の一つとして、院内の医療従事者の教育に重点を置いた方法を紹介します。また、RRSは起動されなければ対応が始まりません。そのため、病棟スタッフが患者のフィジカルアセスメントを迅速に行い、RRSを起動できるようにするため、e-learning教材の体験、オンラインアプリケーションでのRRS起動体験、スポットチェックモニタを活用した起動方法についても解説します。



命のために。生きるのそばに。

日本集中治療医学会
THE JAPANESE SOCIETY OF INTENSIVE CARE MEDICINE